

目次

……………  
【1】 --- 教員コラム第 12 弾 第 8 回「学歌と赫土（かくど）について」

副学長・学友会大学支部長・小児科学 / 細井 創

……………  
【2】 --- 年末年始の図書館サービス

……………  
【3】 --- 【医中誌 Web】 絞り込み条件の改定、モバイル版機能追加

……………  
【4】 --- 2018 年の図書館三大ニュース

……………  
[ Book Review ] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

---

【1】 --- 教員コラム第 12 弾 第 8 回「学歌と赫土（かくど）について」

副学長・学友会大学支部長・小児科学 / 細井 創

……………  
本年より創設した学友会大学支部学生作文賞「赫土賞」の命名については、卒業式や入学式で歌う本学の学歌の一番と四番の結びの歌詞（注）にインスピレーションを受け思いついた、と自分では最初思いこんでいましたが、よく考えてみれば、学生時代、本学に文芸部を再興しようと話し合っていた中嶋章作君（昭和 57 年卒、中嶋クリニック院長、本学特任教授、京都精神科医会会長）が当時見せてくれた彼の義父杉本順一先生（昭和 30 年卒、杉本医院元院長）の蔵書になる京都府立医科大学文芸部雑誌「赫土」創刊号の表紙の映像が鮮明に記憶に残っていたことの方が大きかったかもしれません。

昭和 29 年 3 月の創刊号には、当時、本学解剖学教室の助手であった佐野豊先生（元学長、本学名誉教授）が「素材に就いて」というエッセイを、第 2 号には当時本学の 3 回生であった藤田哲也先生（元学長、本学名誉教授）が「アプレゲールの佛教巡礼」と題した大作を寄稿されています。

先日、本学に 70 億円ものご寄附をいただき、陽子線施設を含む最先端がん診療研究センターを設立してくださった日本電産の永守重信代表の講演を拝聴する機会がありました。その講演の中で氏は、「私は京都府立医大に命を預けている。府立医大以外にはかかるつもりはない。」と言われつつも「その府立医大にも、患者の訴えに心のない、紋切り調の受け答えしかできない医者が多くなった。患者が何に困り、何を求めているかを推し量り、患者ごとに異なってもよいから、人の心を動かすような、患者の心を癒すような言葉をかけられ

る医者になって欲しい。」とのお言葉が印象に残りました。現代の医療は、「病気や臓器を診て人を診ず。」とか「科学的根拠優先で、免罪符のようにありとあらゆる可能性や危険性を患者にすべて話して患者を恐怖のどん底に陥れている。」「他者の立場に立って想像する能力が欠如している」などと言われることがあります。この原因の一端は、現代の医療者、とくに大学医学部の医師が昔と比べ、「学生時代から科学論文は読みこんでいても、小説や文芸作品はほとんど読まなくなった」ことに関連しているのではないかと私は思っています。「文学的思考」こそ、実は現代の医療者に最も必要で、かつ欠如しているものの一つではないか、と思うのです。

平成30年12月4日、京都府立医科大学学友会事務長を務められてきた武野和弘氏のご逝去されました。先の永守氏の講演では「医療も会社も、この世の中の進歩は、使命感を持った1割ほどの人たちで牽引されている。」という心に残るお言葉もありました。武野氏の長年の学友会への献身的なご尽力に敬意を表し、ご冥福をお祈りするとともに、この拙文を武野氏の御霊に捧げます。

(注) 京都府立医科大学 [学歌](#)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 一 | 比叡は明けたり鴨の水<br>学城立てり儼として<br>真理の証神秘の扉<br>生命の燭火常照りて<br>星の群花地を灼く | ひえはあけたり かものみづ<br>がくじやうたてり げんとして<br>まことのあかし くしびのと<br>いのちのともしび ところりて<br>ほしのむれはな つちをやく |
| 四 | 神と澄むもの雪祭り<br>医道古賢の教あり<br>生贄の日の曙に<br>燃ゆる血潮を捧げ来ぬ<br>仁慈の愛の赫灼と   | かみとすむもの ゆきまつり<br>いだうこけんの をしへあり<br>いけにへのひの あげぼのに<br>もゆるちしおを ささげきぬ<br>めぐみのあいの あかあかと   |

過去の教員コラムは[こちら](#)です。

---

## 【2】 --- 年末年始の図書館サービス

---

◆学外からの文献の取寄せ

複写物の入手は翌年になります。

◆図書館休館日

平成 30 年 12 月 23 日(日祝)は祝日のため、日曜開室はいたしません。(休館です)

平成 30 年 12 月 28 日(金)～平成 31 年 1 月 4 日(金)は年末年始の休館です。

※新年は平成 31 年 1 月 5 日(土)10 時から開館します。

※日曜開室は平成 31 年 1 月 6 日(日)から行います。

---

### 【3】 --- 【医中誌 Web】 絞り込み条件の改定、モバイル版機能追加

---

12 月 5 日(水)に医中誌 Web のバージョンアップが行われました。

- ・ 絞り込み条件の改定① 「症例報告・事例」
- ・ 絞り込み条件の改定② チェックタグ「小児」「成人」「高齢者」
- ・ 論文シェア機能に LINE を追加
- ・ モバイル版の機能追加 (クリップボードの保存件数表示)
- ・ シソーラスブラウザの「副標目チェックボックス」が医中誌フリーキーワードでも使用可能に
- ・ 検索時の統制語選択画面からそれぞれの用語の詳細画面へアクセス可能に
- ・ 発行元情報の出力

詳細は、[こちら](#)でご確認下さい。

---

### 【4】 --- 2018 年の図書館三大ニュース

---

平成 30 年最後のメールニュースになりました。

1 年のニュースを振り返り、編者の独断と偏見で今年の図書館 3 大ニュースをランキングしてみました。

- 1.日曜日も開室します！ [[2018/9/28 号](#)]
- 2.SFX にシボレス表示など新機能追加 1～3 [[2018/4/27 号](#)、[5/11 号](#)、[9/28 号](#)]
- 3.新・プロジェクト!「京都府立医科大学附属図書館資料等充実支援寄附金」を募集しています [[2018/4/13 号](#)]

---

## [Book Review]

---

伊良子正著『詩集 十二月の蟬』創樹社（1986年）

教員コラムにある学歌は、本学卒業生で詩人でもある、伊良子清白氏の作詞です。清白氏の次男、伊良子正氏の作品には、医師の家族として各地を転々とする生活や、無愛想で癩癩持ちな父の性格、服毒自殺を図った長女を冷徹に処置する医師の姿が描かれています。

「十二月の蟬」は、狷介な父親を否定しながらも、その才能への劣等感にさいなまれる作家のジージーと鳴く声にも読み取れます。（第2閲覧室 911.56||I）（C.H）

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

---

図書館メール News 第 377 号 2018.12.21 発行（隔週金曜日発行）

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

[library@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:library@koto.kpu-m.ac.jp)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>